

イースター島3連泊とガラパゴス諸島3連泊の旅 12日間



↑**ラノ・ララク** イースター島最大の火山で、山自体がモアイの製造工場跡。島内のほとんどのモアイ像は、この山から切り出されました。約400体のモアイが製作途中で放棄された状態で残されているため、その製作過程を窺い知ることのできる貴重な場所でもあります。写真右側のモアイが島で最大と言われるピロピロと呼ばれるモアイです。



チリ本土から約3,800キロ西、周囲約1,850キロに有人島は皆無の絶海の孤島・イースター島。島内には姿・形・表情の異なるモアイ像が約900体点在しており、世界七不思議の一つとなっています。島全体がラパ・ヌイ国立公園として、ユネスコ世界遺産に指定されています。



↑**アフ・トンガリキ** 島西部の海岸沿いに15体のモアイ像が並び島最大の祭壇。津波などで倒壊していたモアイ像を日本企業の援助により再建されたことで知られます。



↑**アフ・アキビ** 島のほぼ中央にある7体のモアイ像。他のモアイ像と異なり、海を向いて立っていることで知られます。



↑**アフ・フリ・ア・ウレンガ** 海岸沿いではなく、草原の中に単体で立つ珍しいモアイ像。深い眼孔の凛々しい顔つきが特徴のモアイ像です。



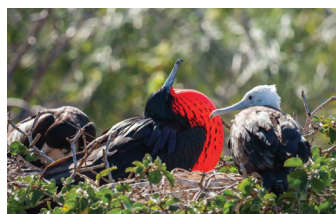
↑**アフ・ナウナウ** 土の中から掘り出され復元された7体のモアイ像。砂に埋もれたため保存状態が良く、そのうち4体はプカオという赤い帽子のような石材を載せています。



エクアドル本土から約960キロ西、太平洋上の赤道直下に浮かぶガラパゴス諸島。どの大陸とも陸続きにならなかったため、独自の生態系が出来上がりました。絶滅の危機に瀕する生物が多数生息し、地球進化の過程がわかる自然環境を有することから、世界自然遺産の第一号に指定されています。



↑**ガラパゴス・ウミイグアナ** 世界で唯一海に潜って海藻を食べるイグアナ。



↑**アメリカ・ゲンカンドリ** 繁殖期にあたれば、喉を真っ赤に膨らませたオスの様子がご覧いただけます。



↑**バルトロメ島** ヨウガンサボテン、ティキリアなどのガラパゴス独特の植物や、ヨウガン・トカゲなどが生息しています。山頂まで360段の階段を含む600mのトレイルを歩いて向かいます。山頂からは、もっともガラパゴスらしい360度の荒涼としたパノラマが楽しめます。



↑**サンタ・クルス島** ガラパゴス諸島最大の人口をもつ中心の島。ダーウィン研究所を訪れ、ガラパゴス・ゾウガメを観察します。

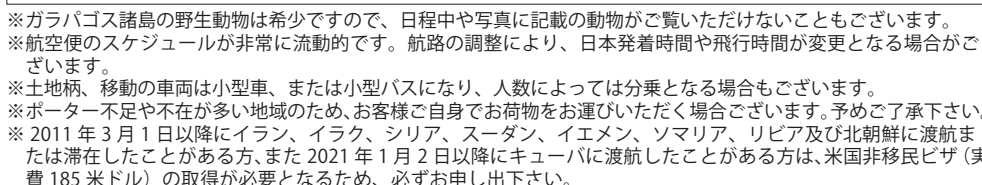


↑**ノース・セイモア島** ほぼ平坦な島で、アオアシカツオドリやゲンカンドリの営巣地があります。

◆コースのポイント◆

- ◇南海の孤島イースター島。未だ謎の1000体もの巨石像が残る島。今回、イースター島に3r連泊し、たっぷりと不思議の島を巡ります。
- ◇ダーウィンの「進化論」の舞台ガラパゴス諸島では、ここでしか見られない独自の進化を遂げた動植物の数々と出会います。宿泊は全てホテルにて。各島へは船を利用して移動しますが、船酔いが心配な船中泊はございません。

モネタ宮殿



より快適な、価値ある旅のご案内

●国内線の乗り継ぎについて

◇大阪、名古屋、福岡、札幌などからの国内線でご出発の場合、追加料金にて手配を承ります（一部コースを除く）。料金につきましてはお問い合わせ下さい。（別途、お席の確保が必要となります。）

◇国内線をご利用の場合、国内線の遅延や、乗り継ぎ不可能な時、座席を確保できない、他の交通機関を利用した時、羽田経由の場合の成田空港までの交通費、宿泊が必要となる時の費用等、ご出発とご帰国時の国内における諸費用はお客様の負担となります。

●航空機及び移動について

◇利用航空会社は、日本発着便を原則として表示しており、乗り継ぎを必要とする時の航空便や、旅行地で空路移動する場合の航空便は、他の航空会社となることもあります。◇航空便の座席（隣合わせ、窓側、通路側等）については、ご希望に添えない場合もございます。又、座席の混み具合等によりご同伴の方でも隣り合わせのお席にならないこともございます。

◇僻地や列車等での移動でポーターがいない場所では、お客様にご協力いただきご自身の荷物をお運びいただくこともございます。

●利用航空機について（日本発着便）

◇エアロメヒコ航空、エアカナダ、デルタ航空、アメリカン航空、ユナイテッド航空、全日空、日本航空、エミレーツ航空、カタール航空、エティハド航空、シンガポール航空、フランス航空、KLM オランダ航空、ITA エアウェイズ、ルフトハンザ・ドイツ航空、プリティッシュ・エアウェイズ、スイス・インターナショナル・エアラインズ、

●日程中のマークの読み方

☉:朝食、☒:昼食、☑:夕食、☒:機内食、☐:食事なし、○:入場観光、○:下車観光、△:車窓観光

●時間帯のめやす

04:00	06:00	08:00	12:00	13:00	17:00	19:00	23:00
深夜	早朝	朝	午前	昼	午後	夕刻	夜

●ご宿泊について

◇お一人で参加され相部屋を希望し、お相手の方が見つからなかった場合は、**一人部屋利用追加代金の半額にて、一人部屋をご利用いただけます。**但し、ご出発日の40日前までにお申込金のお手続きを完了されたお客様に限りです。尚、相部屋の方の、禁煙・喫煙、同年代などの希望には添えません。また、お申込後「相部屋⇒一人部屋」へ希望を変更することは原則不可となります。

●個人情報の取り扱いについて

◇弊社は旅行申込の際にご提出頂いたお申込書に記載された個人の情報に関しましては、お客様と弊社との連絡に利用させて頂く他、当該旅行の実施に関わる関係諸機関へ必要な範囲内で提供いたします。また、弊社の旅行商品の開発、ご案内などにて利用させて頂く場合もございます。

●海外渡航関連情報について

◇訪問国によっては、外務省より「海外危険情報」など、渡航に関する情報が出されています。それら情報に関しては以下でご確認下さい。

■外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

■厚生労働省海外衛生関連情報 <http://www.forth.go.jp/>

◇ご協力をお願い◇

団体旅行は、楽しい旅をしていただくためにお客様同士の心配りが大切です。バス移動の際の前方座席の連日の独占は避け、カメラ・ビデオの撮影マナー、喫煙マナー、食事マナーなどに気を配り、お互いに譲り合い、公序良俗を守り、気持ちよく旅ができるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

●確定した航空会社の便名、ホテル名等は、ご出発日の前日迄にお渡しする確定書面でお知らせ致します。尚、お問い合わせ頂ければ手配状況についていつでもご説明申し上げます。

屋食時、夕食時にドリンク・ウォーターをサービス

場所によってはガス入りとなる場合もございます。

便利なイヤホン・ガイドサービスを使用

添乗員、ガイドから離れていても説明が聞けるイヤホン・サービスをご利用いただけます。カメラ・ビデオを撮影しながら自由に動けることで大変好評いただいております。

ご旅行条件（要旨） ご旅行代金の内訳、お取消料などについて、旅行条件を十分にお読み下さい。

この旅行は株式会社旅のデザインルーム（以下当社）が企画・募集し実施する企画旅行であり、参加されるお客様は当社と企画旅行契約を締結することになります。当社は旅行日程に従ってお客様が運送・宿泊機関等の旅行に関するサービス（以下旅行サービス）の提供を受けることができるように、手配することを引き受けます。この書面は、旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書及び同法12条の5に定める契約書面の一部になります。旅行契約の内容・条件は別途お渡しする旅行条件書（全文）、ご出発前にお渡しする最終日程表（確定書面）によります。お申込の際は、旅行条件書（全文）をお受け取りの上、必ずご確認下さいますようお願い申し上げます。

●旅行代金に含まれるもの

◇旅行日程に明示した運輸機関の運賃、食料料金、観光料金（バス料金・ガイド料金・入場料）、宿泊料金二名一室を基準）及び税・サービス料、海外空港諸税、スーツケース一個の運搬料金、団体行動中のチップ、添乗員付コースはその同行諸費用。以上の費用は、お客様の都合により、一部利用されなくても原則として払い戻しはいたしません。

●旅行代金に含まれない物

◇上記の他は旅行代金に含まれません。その一部を例示いたします。超過手荷物料金、一人部屋を利用される場合の追加料金、希望者のみ参加されるオプション・ツアーの料金、渡航手続関係諸費用（旅券印紙代、手続代料金など）、日本国内の空港施設使用料・保安サービス料、国際観光旅客税、燃油サーチャージ、国内におけるご自宅からツアー集合及び解散空港間の交通費、宿泊費、クリーニング代、電報電話料金・ホテルのボーイやメイドへのチップ、日程明示外及び別途追加の飲食費、他一切の個人的性質の諸費用。

●お申し込みに際して

◇旅行中に特別な手配を必要とする方は、お申込みの時にその旨お申し出下さい。旅行の内容によっては、お伺い書や健康診断書等をご提出いただく場合がございます。又コースによっては、ご参加いただけないこともございます。◇他のお客様に迷惑を及ぼすおそれがある当社が判断する方のお申込みはお断りすることもございます。

●旅行代金のお支払い

◇旅行代金は、出発日の21日前までにお支払い頂きます。

●取消料

旅行解除期日	旅行代金	取消料（お一人）
ピーク時の旅行（41日前までは不要） ●40日前から31日前までの取消し		旅行代金の10% （限度額5万円）
その他の期間の旅行（31日前迄不要） ●30日前から21日前迄の取消し	30万円以上 15万円以上 30万円未満 15万円未満	50,000円 30,000円 30,000円 20,000円
以下は全ての旅行に適用 ●20日前から3日前までの取消し		旅行代金の20%
●前々日から当日		旅行代金の50%
●無連絡不参加及び旅行開始後		旅行代金の100%

●「ピーク時」とは 12/20～1/7、4/27～5/6 及び 7/20～8/31 をいいます。

●取消料の対象なるお支払い対象旅行代金とは、旅行代金と追加代金（一人部屋利用追加代金・航空機の等級変更による差額など）の合計額です。

●相部屋の方のお取り消しに伴う一人部屋追加代金について
◇相部屋のお相手の方（配偶者・友人も含む）がお取消された場合、結果的に一人でお部屋を利用することになる方は、**一人部屋利用追加代金のお支払いが必要となります。**尚、その後相部屋希望者の参加があった場合は必要ありません。

●旅行条件・旅行代金の基準

◇この旅行条件は2024年8月16日を基準としております。また旅行代金は2024年8月16日現在有効な航空運賃・適用規則に基づいて算出しています。尚、旅行代金の変更について定めた当社約款第13条第1項から第4項の適用に関し、幅運賃制であるIIT運賃（個人包括旅行運賃）を適用した旅行は、幅の範囲内での航空運賃の増額又は減額があっても当該旅行の代金の変更は致しません。詳細については、当社の旅行業約款をご覧ください。又、当社にいつかなる場合でも旅行の再実施は致しません。

●旅程保証

◇旅行日程に重要な変更が行われた場合は、旅行業約款の規定により、その変更の内容により変更補償金をお支払い致します。

●旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引の責任者です。担当者からの説明にご不明な点がございましたらご遠慮なく、下記旅行業務取扱管理者にご質問下さい。

マラリアについて ※中南米は、マラリアの発生地域と云われております。黄熱病と異なり出入国の条件にはなっていませんが、旅行中は予防に努めましょう。

【マラリアとは】

ハマダラ蚊による吸血により人に感染する感染症です。ハマダラ蚊は、夕方から夜にかけて飛び始めます。マラリア危険地域では夕方以降の外出はなるべく避けましょう。

【マラリアの症状】

高熱、震え、咳、下痢、関節痛、頭痛、吐き気、全身の痙攣、昏睡など。放置すると死に至る可能性もあります。

【マラリアの潜伏期間】

マラリアは感染してから1週間から4週間で発病することが多いといわれています。

【マラリアの治療】

マラリアの治療で最も大切なのは早期発見、早期治療です。早期にきちんと治療すれば大抵のマラリアは数日のうちに回復します。熱帯や亜熱帯への旅行後や旅行中に高熱がでたら直ぐに医療機関を受診することが大切です。

【マラリアの予防法】

マラリアに対してはまだまだ有効な予防接種がありません。一方、抗マラリア薬を服用することで予防可能ですが、抗マラリア薬の効かない耐性マラリアや副作用の問題があります。厚労省は予防的服用をはっきりと推奨しておらず、個人的な意思に任せるとしております。最も効果的な予防法は蚊に刺されないことです。夕方以降に外出する場合は、長袖長ズボン、虫除けスプレーを塗布しましょう。また、就寝時には蚊取り線香やベープを焚くことによいでしょう。

【最新情報】

厚生労働省海外衛生関連情報 <http://www.forth.go.jp/>

★高山病について、必ずお読み下さい★（ペルー、ボリビアに渡航の際）

★高山病とは、低酸素状態に置かれたときに発生する症候群のことです。高山では空気が地上と比べて薄いため、概ね2,500m以上の高所において酸欠状態に陥った場合に、さまざまな症状が現れます。主な症状は、頭痛、吐き、めまい。こうした低酸素状態に対応しようとする体の変化は、誰にでも起こるものです。高山病の発症の具合は人それぞれで、年齢、高所の経験などに関係なく発症します。ですからどのぐらいの高さで起こるのか、どのぐらいの体力があればかかりにくいかなどはいえません。しかし突然発病して倒れるといった病気ではなく、必ずその前に兆候が現れます。その兆候を警告として捉えることができるかどうかが重要です。また、**一般的に高血圧、心臓病の方は高山病になり易いと言われており、既往症のある方、少しでもご心配な方は、当日程表を医師にお見せいただき、ご相談の上、ご判断下さいませようお願い申し上げます。**※高地へのご旅行にご参加の方は必ず、**疾病死亡・治療、救護者費用を含む海外旅行保険へのご加入をお願いしております。**

★高山病対策として

- 1) 体を高所に慣らすことが必要です。これを高所順応といいます。これを無視して高度を上げると症状が悪化する場合があります。旅のデザインルームの各コースでは、お客様に無理なく高所順応していただけるよう工夫して日程を組んでいます。
- 2) 添乗員が**パルスオキシメーター（血中酸素飽和度測定装置）**を持参し、必要に応じて客観的にお客様の高度順応状態を把握します。
- 3) 毎日水分はたくさん摂りましょう。高所では脱水が起こりやすく、渇きの感覚も鈍化します。平地では、普通の人は毎日約2リットルの水分を必要とします。高所では1日の水分必要量は4リットルを超えるといわれています。
- 4) 暖かくして快適な睡眠をとりましょう。激しい運動や過度な飲酒・喫煙は控えた方が良いでしょう。
- 5) 予防薬:「ダイアモックス」は有効であるという日本旅行医学会の報告があります。但し「ダイアモックス」には副作用として口唇、手足のしびれが出ることもあり、医師の処方が必要です。